松月堂古流
四季混雜

生花百瓶圖

人

諸國會頭

南宮　獨笑菴山甫

三野之社中

會典

石津郡牧田　翠篁亭亀丈

大小夏菊

御直門

南宮

獨笑菴主人

虞美人

御直門

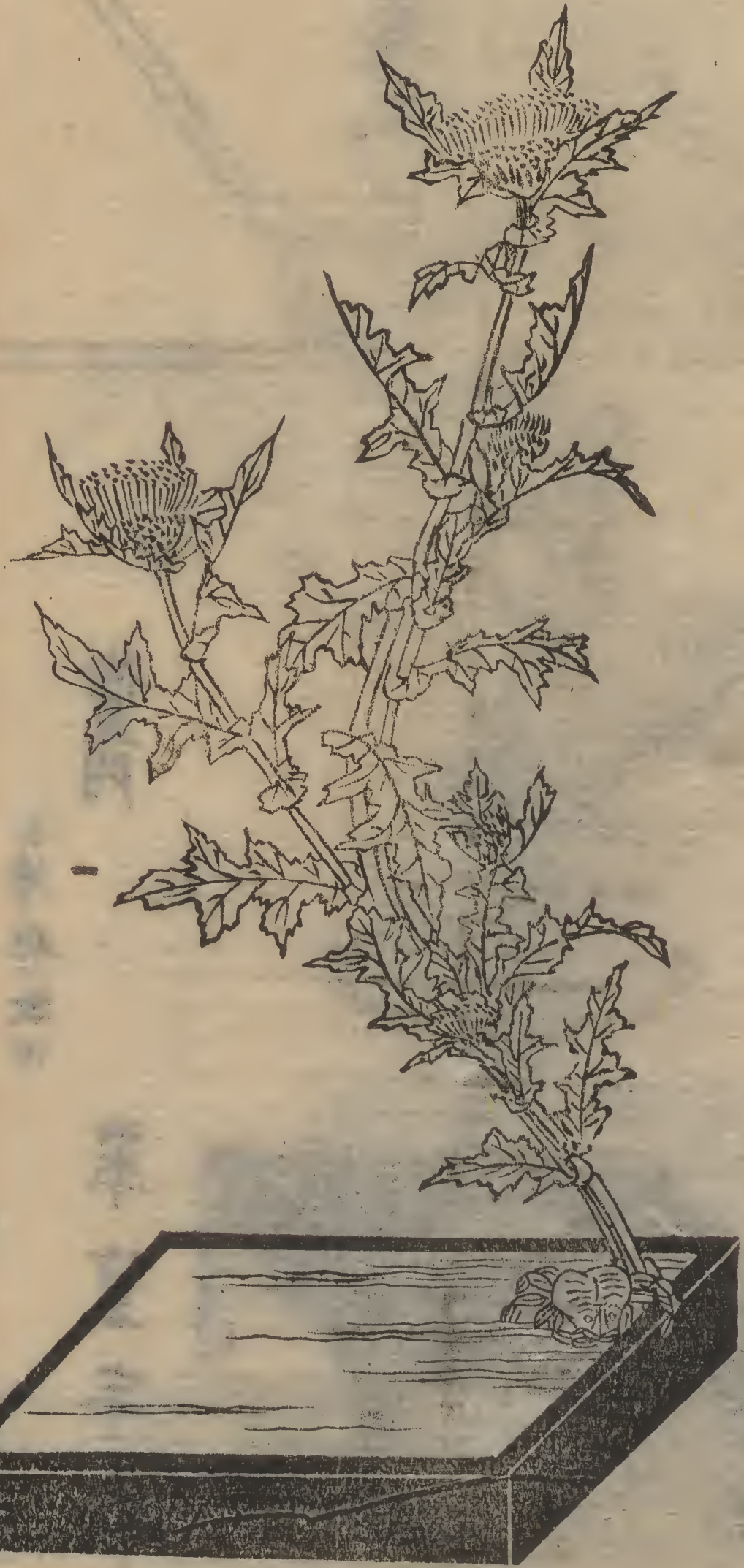
石津郡牧田

翠篁亭主人

緋薊

御直門 南宮

守拙菴主人

白芨

御門人 南宮

月闚舍文素

燕子花

御門人

南宮

雲霄菴

凌雨

南天

黄精

石津郡牧田

肆耕亭

臨圃

大葱鳳花

南宮

月江亭　全心

河骨

石津郡湫田

東籬園

忍冬

石津郡牧田
九皐亭
一聲

石楠花

同所
少年
五總軒
亀六

虎耳草

同所

小心菴田甫

山茶花

不破郡十六

華魁蘆寄白

紅櫨

南宮

杦村文器

大罌粟

同所

森堯里

花柘榴

南宮

大庭氏女 彌千代

蓮

石津郡牧田

溪君寔

有流

実ノ木

唐葱凰花 漢名未詳

南宮

青雲閣 文雅

拈本草

山田郡森

弄花亭 衣香

通草

南宮

茱華園翅蝶

水葵

山田郡十九条

東雲舎素櫻

威霊仙

御直門

南宮

白玉軒主人

餘興

去年原隣士之花枝揷
花趣何深四方而如雲
從來是圖中載百瓶春
餘心

東蘇園主人筆

五大坊玉蛤道人

御直門　蒿峰

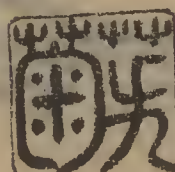
こ乃花に心し
をの子はなは
とにつまにわかれ
まやちとせのし
路

九華　蒿名題

鈴掛草

尾陽名府常盤町

湖雲亭

寒牡丹

濃州本巣郡十五条

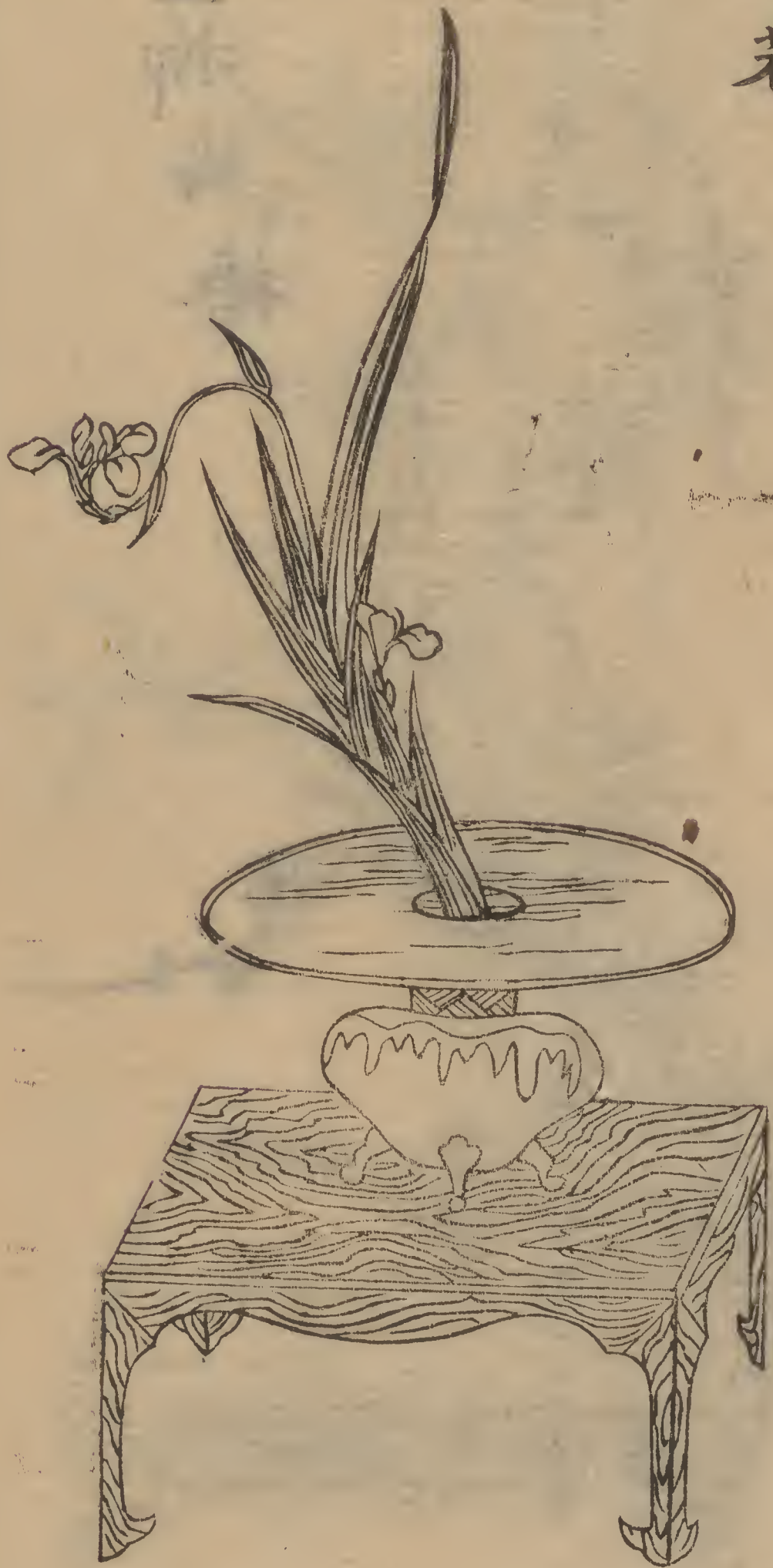
透竹軒

枇杷
小菊

御直門
植松殿家中
東山亭主人

埀柳梅
椿

江州米原
雪洞舍
箕交

杜若

御直門

華洛

梅楚舍主人

菊

中輪
小輪

御直門

華洛

方圓居主人

燕紫花

御直門

華洛

二光菴主人

接切溜生本式有
口傳故捧不彫也

尾陽

大篁軒

追加
唐茉苣

江州能登瀬帰来軒社
芸腫亭秀成

跋

玉幸ふ神乃御代〻は華於折移花挿系ふ
礼ぬの實於折ちも桜の葉以萬津玉も玉三
栗於吊ゐ御世〻は花をし見れも物見以玉
咲花於下に隠家と聞し哉花を飾ふ
好として古へ之お之何の定めなき和栗弟

利通波此之世に書里隆人まれども武器
三乃物を歴し八武を五の物ま像生何来の
傳へ甚某於て源乎迹武家生来当利通
こし字形里に書れ波由隆彼乃家の秘す
といふ事有たるや書し学ひ得様を難加
里なるし然ちる禮堂柔大人石上槐於川

水乃舊毛源乎迹武波て大海原乃広久茂
深き津の浪を津波尔安学紀の字筆を
手和屋須九十てし将叙事先つ来なる
こゝ而於甲斐乃國人虫指たる武の中自
難波入江乃蘆於く葦を擇ひ世に傳
へまし訴して名雖敢を寫し武士のよう

に削る梓はた板に雕きて來ぬるを續ては石摺
の法は書は國人らか筆の集めして擬ふ
ものゝ彼の名ある手跡を一の文を摺り
本にある王羲之か筆は世にも自ら疾く學ひ
て其登山を遠の要を凌ぎ手本はその筆
農エ陰り桃洞り餘れき野遠の字跡を

今は百種の字は筆者六つに屢は心に是時
ま樣あまり解ては心和進書ゑも見え其
書誠し新字多を種に得る深く不
得所ある免れき師の國をよ字は度も
し給ふ今にも書探して入る處をも上り來
嬬詞さも出かへ世に押字は車書なり

然示書の下太序し

文政二己卯仲秋

渓海八園笠浦の郷人

何来軒心醉浅

跋

四時のし事物いつれもその由ありつ里善の
おこれるよしも世挙まて代謝しくをもひ
を遣里然をこゝろの始よ八なりぬされと
新の営山時雪紅葉み由きなきては
この時をあ里こ志の折八なまつり前義を
何しも由ふ人よたく奴等のあハ記より

植松殿方

柗月堂古流正統三世惣會頭

五大坊雙蛾著述

二光菴卜天

洛三會頭

二世 方圓居宗智

梅楚舎芝交

同會典

二世 五行坊維石

同岸の波　暁山撰　全三冊

生花荻乃霜　都山撰　全三冊

同後篇　同撰　全三冊

砂鉢生花傳　成古撰　全一冊

生花千筋の麓　千葉一流撰　全五冊

生花千代の雲　二百瓶図　東都松秀斎撰　全四冊

正風花矩　遠州流宗碩撰　全一冊

松月堂古流書目録

四季百瓶圖　是心軒一露撰　全三冊

甲陽百瓶圖　同撰　全三冊

草木出生傳　五大坊卜友撰　全二冊

同花圖式　同撰　全二冊

小篠乃二葉　同撰　全二冊

罌子花百瓶　同撰　全二冊